実践編

4 地域と連携した活動を進めるために

Scene 1

あなたの学校の連携状況を確認する

①連携の状況

学校と地域の連携の在り方については、地域や学校の状況、学校の教育方針等様々な状況の中で、校長のマネジメントの下で決められるものです。したがって、どのような状況が優れているということはありません。

ただし、効果的・効率的な連携体制を構築していく必要があることから、連携状況を例示し、より良い連携体制の在り方を考えてみることにします。

1 ボランティアが活動している

地域住民による学校支援ボランティア活動の実施率は、小学校94.2%、中学校75.0%、高等学校21.4%、特別支援学校78.6%となっています(総合教育センター調査(平成27年))。連携活動には、ボランティアの活動が効果的です。

2 体制づくりができている

ボランティアに効果的・効率的に活動してもらうためには、ボランティア室等の環境面の整備をはじめ、連絡会議等の実施、教員への学校支援ボランティア活動に関する理解などの体制づくりが必要です。

3 計画的に実施されている

地域との連携活動は、児童・生徒の教育活動の充実を図り、学校の教育課題の解決につながっていきます。そのため、各教員が個別で実施するだけでなく、学校全体の教育目標と関連付けて実施していく必要があることから、「地域連携全体計画」等を基に実施されることが大切です。

4 コーディネーターがいる

地域連携教員が活動する上での一番の課題は「地域連携の業務に携わる時間の確保」となっています(総合教育センター調査(平成28年))。学校にコーディネーターが設置されていれば、地域連携教員の負担が大幅に軽減されます。小学校53.2%、中学校51.4%、高等学校15.2%、特別支援学校21.4%の学校にコーディネーターがいます(総合教育センター調査(平成28年))。

5 効果的な活動が行われている

地域との連携活動を効果的に実施するためには、アクティブ・ラーニング等の導入や各教科等の目標への位置付けとともに、活動の評価を行っていく必要があります。これは、カリキュラムマネジメントにもつながります。

6 地域づくりにつながっている

学校支援のために学校に集まった地域住民同士のネットワークが地域活動につながっていきます。また、学校支援の取組が地域づくりにつながっていく場合もあります。学校と地域の「協働」となるよう、ボランティアの活動を学校として応援していくことも必要な視点です。

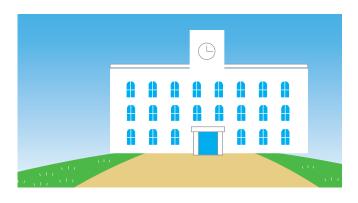
4 地域と連携した活動を進めるために

②連携活動のチェックシート

次の項目であなたの学校の状況をチェックしましょう。改善が必要と思われる項目については、「改善のヒント」の欄の項目が今後の取組の参考になります。

O: 当てはまる $\Delta:$ やや当てはまる $\times:$ 当てはまらない

チェック項目	0	Δ	×	改善のヒント
①学校全体の連携活動をまとめた計画が作成されている				Scene 2 (P 2 3)
②教職員が地域連携の意義を共通理解している				Scene 3 (P 2 5)
③教員の連携活動のニーズを地域連携教員が把握している				Scene4 (P27)
④コーディネーターが設置されている				第3章(3) (P19)
⑤コーディネーターとの話合いや情報共有がなさ れている				Scene 5 (P 2 9)
⑥ボランティア室の設置や教職員への周知など、 ボランティアの活動環境が整っている				Scene 6 (P31)
⑦連携活動が単なる体験でなく、効果的な学習方 法で展開されている				Scene 7 (P33)
⑧子どもたちの教育活動やボランティアの活動状況などが地域に発信されている				Scene 8 (P35)
⑨連携活動の継続のために、活動の情報の蓄積や チーム体制づくり等が行われている				Scene 9 (P37)
⑩個々の連携活動を評価し、その成果を確認している				Scene 1 0 (P39)
⑪学校支援を通して地域住民同士のつながりが生まれている				第5章(2) (P45)





理論編P10

Scene 2 学校全体の連携活動の総合調整を行う

①地域連携に関する計画作成の視点

各校における連携活動が効果的・効率的に推進されるためには、地域連携教員が学校全体の状況を把握し、活動の企画・運営を支援していく必要があります。計画を作成する意義は次のようなものが挙げられます。

学校の教育目標との整合性を図る

各学校の教育目標を達成するために、計画を作成し、連携活動がどう関わっているのかを明確にしていく必要があります。これにより、各教科等における連携活動も学校の教育目標につながっていることを確認することができ、指導の幅が広がります。

カリキュラム・マネジメントにつなげる

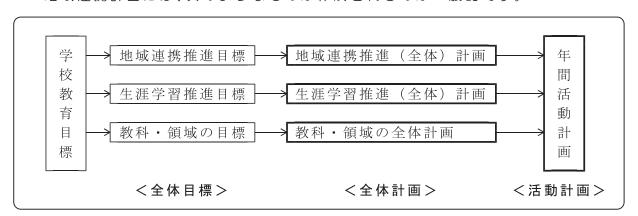
カリキュラム・マネジメントの側面として、教育内容と地域等の外部の資源を効果的に組み合わせながら、学習活動の充実を図るとともに、その成果を評価し改善を図ることが求められています。各教科等における連携活動の目的を明確にすることで、カリキュラム・マネジメントの確立につながります。

連携活動を効率的に管理する

年間を通して計画的に連携活動を進めるためには、いつどの教科でどのようなボランティアが活動するかをまとめることが大切です。これにより、コーディネーターがボランティアの調整を余裕を持って行うことができ、連携活動を効率的に管理することができます。

②地域連携計画の種類

地域連携計画には、次のようなものが作成されるのが一般的です。



各学校において地域連携に関する目標がどのように設定されているかによって、 作成される計画が異なります。地域連携教員は各担当や教科主任等と調整しながら、 全体計画及び年間活動計画を総合的に作成します。

4 地域と連携した活動を進めるために、

③地域連携計画を作成する手順

現状の把握と分析、課題の明確化

各校の現状に合った計画を作成するために、学校教育目標、各教科等の目標、児童・生徒や保護者、地域の実態と保護者や地域の願いを把握するとともに、これまでの地域連携の取組について、「弱みと強み」を分析しながら、地域連携における課題を明確化します。

【課題の明確化の方法例】

- ◆地域連携の4つの視点から分析する ・・・・《P5》
- ◆学校や地域の状況を分析する ・・・・・・≪ P 21 Scene 1 ≫

計画の作成及び見直し

学校教育目標を達成するために、学校全体として地域連携にどのように取り組んでいくかを示した「全体計画」や、一年間でどのような連携活動を行うかをまとめた「年間活動計画」を作成します。作成に当たっては、分析で明らかになった学校や地域の課題を踏まえ、教科主任、学年主任等と連絡を密にし、コーディネーターと連携しながら、学校全体を見渡す計画を作成します。

【計画の作成例】

- ◆地域連携推進計画 ・・・・・・・ 《 P 49 》
- ◆生涯学習全体計画 ・・・・・・・ペ P 51 ≫
- ◆年間活動計画 ・・・・・・・・ ≪ P 52 ≫
- ◆地域人材連携活動計画 ・・・・・・・ ≪ P 27 Scene 4 ≫

評価計画の作成

連携活動が児童・生徒、教員、保護者、地域に良い成果を挙げていることは指摘されていますが、連携活動の成果を測定・評価し、カリキュラムや学校運営のマネジメントに生かしていく必要があります。計画に掲げられている目標をいかに達成したかを評価する方法や実施時期を計画に盛り込んでいきましょう。

【評価の取組例】

- ◆評価のためのアンケート例(児童用) ・・・≪ P 40 Scene 1 O ≫
- ◆評価のためのアンケート例 (ボランティア、保護者用) ・・《P42》

Scene 3 教職員間の共通理解を図る

①なぜ校内研修が必要か

理論編P10

連携活動を組織的・効果的に推進していくためには、教職員一人一人の地域連携に関する理解を深め、学校全体で取り組んでいくことが求められます。そのためには、 校内研修の実施は必要不可欠です。

校内研修を実施することにより、教職員間の共通理解が図られ、組織力の向上につながります。また、校内研修には、それぞれの学校が自校の実態に応じて研修内容や方法を工夫することができるというメリットがあります。

②校内研修に必要な内容

自校の取組状況や教職員のニーズ等、実態に応じた内容を取り上げて実施することが大切です。

◇主な内容例 【 】は研修方法例

〇地域連携の経緯や意義について

法令や答申等の流れの確認、先進事例の紹介等【外部の専門職員等による講話】

○連携活動の体制づくりについて

地域連携についての共通理解が必要な事項(ボランティア受入れの流れ、情報発信の方法等)の確認等【担当や関係職員による説明・実習】

○地域連携に関する活動づくりについて

教科・領域等での連携活動の検討、地域理解の促進、自校の連携活動の効果や課題の確認、活動の見直し等

【地域情報の収集、地域理解の促進のためのフィールドワーク】

【地域連携教員がファシリテーターとなり地域住民を交えたワークショップ】

③校内研修の企画と運営、評価

◇企画・運営について

次のような点に留意して企画・運営していきましょう。

〇研修目的の設定

自校の取組状況、児童・生徒の実態、教職員のニーズ等を把握して、研修目的を明確に設定します。研修目的に照らして研修内容や方法を検討していくと流れがスムーズです。

〇校内の連携体制

いつ、何を、どのように実施するかを年間計画に位置付けておくと、他の教職員の理解も得やすくなります。そのためには校内研修担当者等との連携が大切です。また、職員の専門性や得意分野を生かしたり、地域連携係や関係する校務分掌の教職員と役割分担したりする等、多くの職員が運営に関わることで、連携活動への意識の高揚を図ることにもつながります。

4 地域と連携した活動を進めるために

〇研修方法

研修目的や職員のニーズに合わせて、伝達型(講話・講義等)、参加・体験型(ワークショップ・フィールドワーク等)、課題研究型(事例研究等)を適切に選択したり、組み合わせたりするなど工夫しながら実施しましょう。

また、教職員と保護者や地域住民が一緒に、地域連携についての話を聞いたり、協議したりするなどの機会を設けるとより効果的です。

〇その他

研修企画についての相談、先進事例や外部講師(有識者・活動実践者)情報についての相談は、地域連携のための窓口(P47)に御連絡ください。

◇評価について

実施後のアンケートや年度末等に実施する学校評価に位置付けて、研修の評価を行いましょう。研修内容、方法、日時の設定、運営の在り方、研修の成果や課題等、項目を工夫して実施しましょう。得られた結果を次の計画に反映させることで校内研修の充実・改善につながります。

参考資料:組織力の向上を図る校内研修の充実(平成22年11月 栃木県総合教育センター)

[実践例]

〈ねらい〉 教職員の地域連携に関する理解を深め、連携活動への意識を高める。

〈参加者〉 教職員 保護者 地域住民 〈講師〉 教育事務所社会教育主事

〈時間〉 75分

〈研修形態〉講話・ワークショップ

内容	概 要
1 はじめに	「餃子じゃんけん」
アイスブレイク	緊張感をなくし、安心して発言できる雰囲気作りをする。
【5分】	
2 ワーク1	「本音で語り合おう!地域連携」
グループ協議	グループで話し合い、全体で意見を共有。
【15分】	教職員・・・「苦労したこと」「失敗したこと」「こんなことが面倒だ」「こうだった
	ら楽なのに」と思うこと
	保護者・地域住民・・・「学校のこんなことが分からない」「学校がこうしたらもっ
	と協力できるのに」と思うこと
3 ワーク 2	「それでも、なぜ、地域連携が必要なのか?」
講 話	教育事務所社会教育主事からの講話を聞く。
【20分】	地域連携の必要性や効果、県内の地域連携に関する事例(ワーク1で挙げられ
	た課題を解決するような)等の紹介
4 ワーク3	「新たな視点で、地域と連携できそうなことは?」
グループ協議	グループで話し合い、全体で意見を共有する。
【25分】	講話を聞いて感じたことをもとに、さらなる地域連携の充実に向けて、地域と
	連携できそうなことについて、グループ内で意見を出し合い、全体で意見を共
	有する。
5 おわりに	「ふりかえり」
【10分】	今後どんなことに取り組んでいきたいかを各自振り返り、グループ内で確認し
	合う。

参考:平成27年度地域連携教員活動支援事業資料学校と地域を結ぶ~学校と地域の連携を推進するために~

Scene 4 教職員の求めに対応する

①教職員のニーズ調査の観点と手順

教職員は学校支援ボランティアの協力を得たいと思っていても、協力してくれる人材を自分で見つけるとなると二の足を踏んでしまうこともあるようです。そこで、教員がどのような地域の人材を求めているかを把握し、それをコーディネーターに伝えることは、連携活動を促進し、ひいては児童・生徒の教育活動の充実につながります。

そこで、教職員のニーズを地域連携教員が調査している学校も多くなっています。 調査すべき項目は下記のようなものが挙げられます。

○学年 ○教科・領域名 ○単元名 ○活動内容 ○時間数 ○実施時期 ○必要な地域人材(団体) ○必要な施設

調査は年度末や年度明けの早い時期に、教職員にアンケート用紙を配布し、学年主任等が取りまとめて地域連携教員に提出する場合が多いようです。調査用紙については参考までにP28を参照してください。

②調査結果の活用方法

調査結果を地域連携教員が取りまとめ、図4.1のように一覧表にまとめると活用しやすくなります。

平成28年度地域人材連携活動計画一覧 NO. 1 授業の支援活動(ボランティアにお願いしたもの、保護者も含む)

学年	教 科	月	単元名 (教材名)	活 動 内 容 (地 域 人 材)				
		4月	ぐんぐんのびろ	あさがおの種まきの学習支援				
	生活	6月	さあ、みんなででかけよう	あかつき公園探検の引率補助(保護者)				
1年	工力	11月	むかしからのあそびをしよう	伝承遊びの学習支援 (シニアアクティブクラブ、オピニオンリーダー、児童の祖父母)				
		10月	ぐんぐんのびろ	サツマイモの収穫支援(保護者)				
	国語 11月 むかしばなしがいっぱい 日本の昔話の読み聞かせ							
		5月	レッツゴー町たんけん	町の施設見学引率補助(保護者)				
2年	生活	9月	ぐんぐんのびろ	大根など野菜栽培の学習支援				
2#	生 冶	11月	昔の遊びを楽しもう	伝承遊びの学習支援 (シニアアクティブクラブ、オピニオンリーダー、児童の祖父母)				
		1月	郷土の料理を作ってみよう	しもつかれの意味や作り方についての学習支援(児童の祖母等)				
	社会	5月	学校のまわり	学校のまわり探検引率補助(保護者)				
	江云	11月	古い道具と昔のくらし	古い道具と昔使われていたものについての説明				
3年	総合的な 学習の時間	4月~ 12月	作ろう、手作り野菜	野菜作りの学習支援				
	ナロの时间	11.12月	市貝町じまん	市貝町のお祭りや施設、自然などについての説明				

図 4.1 教員が求めている事項の例(「地域人材連携活動計画」市貝町立市貝小学校)

この一覧表があれば、コーディネーターは「いつ」「どのような」人材が必要なのか を知ることができ、地域人材との調整が効率的になります。

また、計画の作成においても、学年ごとにまとめれば、「地域連携推進計画」等の学校全体の計画への反映がしやすく、教科・領域ごとにまとめれば教科・領域の全体計画の作成に盛り込みやすくなります。

≪校内のニーズ調査用紙(例)≫

連携活動に関する校内のニーズ調査について

今年度の授業や学校行事、 校内の環境整備等の中で、 学校支援ボランティアの協力を希望するものがありましたら、下記に記入して学年主任まで提出してください。(提出期限〇月〇日(〇曜日))

【第〇学年】

月	教科・領域 行事等	活動内容 (依頼内容・時間数)	必要な人材や施設・団体等
4			
5			
6			
7			
8			
9			
1 0			
1 1			
1 2			
1			
2			
3			

Scene 5 コーディネーターとの意思の疎通を図る

理論編P10 理論編P15

①コーディネーターへの依頼の仕方

コーディネーターに活動の依頼をする場合、まず、児童生徒の現状や実態、そして、何を必要としてどんなことをやりたいのかを伝えます。コーディネーターは、こうした内容や教員の考えを基に、児童生徒にとって一番良い方法を考えてくれます。学校や教員とコーディネーターが、意思の疎通を重ねることで信頼関係が深まっていき、コーディネーターは学校のことを、教員は地域のことをより理解することにもつながっていきます。

コーディネーターに自分の思いを伝えることで、コーディネーターは教員の思いを形にするにはどのようにしたらよいのかを考え始めます。小さなことから依頼し、互いに学び合うことで信頼関係が深まります。「〇〇さんのお陰でできました。ありがとうございました。」などと声をかけることで「いつでも言ってください。できるこ

とはやります。」という会話ができるようになります。最初から高いことを望むのではなく、教員が自分でもできることから依頼すると「こんなことで誰かのためになるなら」という思いになれるはずです。互いに学び合いながら進めていくことが大切です。



②コーディネーターとの打合せ方法

コーディネーターが常駐している学校といない学校とでは違いますが、コーディネーターとの打合せは書面に記して行うことが大切です。これは、確認不足や思い違いによるトラブルを避けるためです。

また、活動の意図やねらいを確認すること、情報を蓄積すること、次年度につなげることなどのために、ポートフォリオにする必要もあるからです。

外部講師を依頼するような活動の打合せでは、その活動で何をねらいとし、児童・生徒にどんなことを伝えてほしいかを、コーディネーターに明確に伝える必要があります。ボランティアは何をし、どんな事前準備が必要なのか、コーディネーターと意思の疎通を図りながら進めることが大切です。そのため、外部講師との打合せ日までに、簡単な指導案などの準備について、地域連携教員から担当教員に伝えておくようにするとよいでしょう。

こうした段取りには手間がかかるようにも見えますが、 継続することで負担が減るとともに、活動のねらいや教員 の願いに即した活動ができるようになります。そして、 コーディネーターとの信頼関係が深まることで、学校と地 域の連携がより進むことにもつながっていきます。

4 地域と連携した活動を進めるために)

≪事前打合せ用紙(例)≫

活動名(学年・教												
科・領域等)	(年	組			名	教	科・領	頁域等:)	
活動日時	平成	年月		()	第	校時		時	分~	時	分
活動場所												
活動のねらい												
主な活動	1 あい	さつ							準備物	物等		
(ボランティア												
の具体的な活動内容等)	2 学習	活動①										
	3 学習	活動②	2									
	4 まと	め										
連絡事項	口集合時	間						口集台	湯所			
	口交通手	段						□資料	中印刷			
	□経費							ロボラ	ランティ	ア保険		
	口学校か	らのま	お願い	(另	刂紙	参照)						
	口その他]										
ボランティアの	名	前				連組	格先 (Tel等	(連絡時間	
名前												
				1 2								
	他	名										
活動状況												
成果と課題等												
(事後)												
担当者	0						連	Tel				
◎主担当							絡	Fax				
〇副担当							先	e-ma	ail			

Scene 6 ボランティアに快適に活動してもらう

①環境の整備

ボランティアに、快適に活動してもらうためには、まず校内の環境整備が必要です。ボランティアが活動しやすい環境を整えることで、活動の活性化を図ることができます。

ボランティア室の設置

ボランティアが自由に過ごすことができる「ボランティア室」を用意することで、ボランティア同士の情報交換や活動のための準備を行うことができます。ボランティア同士の情報交換は、ボランティア同士のアドバイスや反省を行うために必要であるとともに、学校や児童生徒の状況を共有する機会となります。

また、学校によってはボランティア室を「ふれあいルーム」として、児童生徒とボランティアとの交流の場になっているところもあります。



【ボランティア室にあるとよいもの】

- ・各学年の教科書
- ・学校行事の予定表
- ・学校、学年、学級だより
- ・ボランティア活動記録
- ・引き継ぎ簿、雑記帳 等

掲示板の設置

ボランティアの紹介や活動状況を広報する掲示板を設置することで、ボランティ

アが学校内外で活動していることを、児童生徒や教職員に周知することができます。そうすることで、ボランティア活動について校内の理解を深めることができます。

また、掲示板に自分自身の紹介や活動状況が掲示されることで、ボランティアの活動意欲が高まるとともに、ボランティアと児童生徒の距離を縮めることができます。



学校施設・設備の見学

活動を始める前に、ボランティアが学校の施設や設備を見学しておくことは、ボランティアに学校の一員としての実感と認識を持ってもらうために必要なことです。また、学校にはどのような施設・設備があるのかボランティア自身が把握しておくことは、連携活動を企画する際の重要な情報となります。

②教職員への周知と雰囲気づくり

教職員への周知

教職員に対しては、地域との連携活動の重要性に関する周知や研修の機会の提供とともに、ボランティアに対する理解を深めるための取組も必要です。そのためには、地

域連携教員が実施する連携活動の重要性に関する校内研修会の中で、ボランティアについての学習機会を設けたり、朝の打合せ等でどのようなボランティアが活動するかを伝えたりするなど、いろいろな機会を捉えてボランティアとその活動について教職員に周知していくことが大切です。



情報の提供と共有

ボランティアの皆さんは、学校とともに子どもたちを育てていこうと意欲を持って活動しています。そのようなパートナーとしてのボランティアに、可能な範囲で「学校の経営方針」「教育目標」「校務分掌」「年間行事計画」等の情報を提供し、一緒に考えながら活動の充実を図っていく必要があります。そうすることで、学校が求める状況をボランティアを通して提供してもらえるようになります。



【学校から提供する情報の例】

- ◆学校教育目標、経営方針
- ◆年間行事計画と実施内容
- ◆子どもたちの学習や生活の様子
- ◆地域連携に関する取組
- ◆学校評価の結果
- ◆学校支援ボランティア等、必要 な支援についての依頼 等

【地域から提供してもらう情報の例】

- ◆自治会等、地域の活動団体の状況
- ◆地域の避難場所、防災情報
- ◆子どもたちの通学路や防犯情報
- ◆地域の文化財、社会教育施設
- ◆地域の企業・NPO活動
- ◆ボランティアの希望 等

ボランティアとのコミュニケーション

ボランティアにいきいきと活動してもらうためには、子どもたちや教職員とのコミュニケーションがとれる雰囲気づくりが必要です。挨拶や声かけなど、全教職員で共通理解を図りながらボランティアと気持ちよく接していくことが、継続的な学校支援ボランティア活動につながっていきます。



Scene 7 子どもたちの教育活動の充実を図る



①社会に開かれた教育課程

連携活動はあくまで手段であり、目的は子どもたちの教育活動の充実にあります。 そこで、子どもたちの教育活動の充実を図るために必要な視点をまとめてみます。

次期学習指導要領は、子どもたちと教職員のみならず、家庭・地域、企業等の関係者が幅広く共有し活用することにより、子どもたちの多様で質の高い学びを引き出すことができるための「学びの地図」としての役割を果たせるようにすることを目指しています。そして、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指しています。

そこで、これまでの改訂の中心であった「何を学ぶか」という指導内容の見直しにとどまらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるのか」まで見据えて学習指導要領の改善がなされることになっています。



中央教育審議会教育課程部会資料 (平成28年)

連携活動を企画する際には、その活動が「教科や領域の目標の達成にどのようにつながるか(何を学ぶか)」や、「主体的・対話的で深い学びであるか(どのように学ぶか)」という2つの視点から考えていくことで、より充実した教育活動の実現につながっていきます。

何を学ぶか

どのように学ぶか

各教科や領域で育むべき資質・能力が、連携活動を 通じて身に付けさせることができるかどうかを検討 し、具体的な学習目標を設定します。

学びの質を高めていくために、「アクティブ・ラーニング」の視点を取り入れていく必要があります。そして、連携活動を通して、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を目指す必要があります。

②主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニング」)

○アクティブ・ラーニングとは

「アクティブ・ラーニング」について、具体的に言及されているのは平成24年の中央教育審議会の答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」だといえます。この中で「アクティブ・ラーニング(能動的学修)」とは、「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が**主体的**に問題を発見し解を見いだしていく」ものだとされており、そのための具体的な手法としては「ディスカッションやディベートといった**双方向**の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業」が挙げられています(下線は筆者)。また、小学校で2020年より全面実施される学習指導要領にもその重要性が指摘されており、現在では非常に重視されている学習手法であるということができるでしょう。

もちろん、このような手法はここ数年で新たに開発されたものではありません。社会教育の現場においては戦後より「小集団学習」「共同学習」として発達し、現在では「参加型学習」が概念として近いといえます。これらは講義形式による一方的な学習だけではなく、参加者個々人の持つ課題や問題意識を共有し、それぞれに寄り添いながら解決の方向を探ることが目指されたものでした。また、そのためにはできる限り相互に「顔の見える」関係、つまり参加者のそれぞれが主体性をもてる「小集団」であることが効果的といえます。

〇地域の教育資源を生かしたアクティブ・ラーニングの展開

さて、それでは地域の教育資源を生かしたアクティブ・ラーニングはどのように考えることができるでしょうか。知識の修得においては講義形式の授業によって体系的・系統的に学修することが効果的であり、また必要でもあります。その一方で修得したその知識をいかに実際に活用するのかという点において、地域との連携は基本的かつ非常に効果的であるといえます。

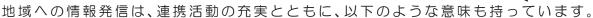
教員以外で児童生徒との距離が近い地域の方々に関わっていただくことは、児童生徒にとって環境の新鮮さがあるとともに、教員にとっては教科との連携による知識の活用が行いやすいといえます。また、地域の方々に児童生徒や学校自体の認識を深めてもらう(理解者となってもらう)ことができるとともに、その方々も知識や経験を生かすことができるため、学校と地域の双方にメリットがあります。他方、児童生徒の知識や経験では対応しきれないこと・分からないことも当然あり得ます。これは今後どのようなことを学ぶかの動機づけ、つまり課題の発見にもなるということができます。

このように地域の方々とともに行うアクティブ・ラーニングの教育効果には**〈知識の活用〉**と**〈課題の発見〉**があるといえます。このときに地域の方々に学校に来ていただく活動と、逆に児童生徒が地域に出て行く活動の2通りがありますが、学年や発達の段階、あるいは学校・地域双方の体制に応じて検討するとよいでしょう。

Scene 8 学校の状況を地域に知ってもらう

①情報発信を行う目的と内容

○情報発信の目的



理論編P10 理論編P15

地域に信頼される学校づくり

学校で何が行われているのか、学校が何を求めているのかを地域に発信し、地域の 人々に知ってもらうことは、地域に信頼される学校づくりを進めていくためには必 要不可欠なことです。そして、情報を発信しながら地域と積極的に向き合うことで、 学校が一層地域に開かれ、地域住民や保護者の学校運営に対する理解が深まります。

多様な地域の人々の参画の促進

学校支援等の活動には、地域の一部の人々だけが参画し、その活動が保護者や地域にあまり知られていないという状況も見られます。多くの地域の人々や保護者、関係機関・団体など多様な主体の参画を促進していくためには、学校から必要な情報を積極的に発信していく必要があります。

また、地域には学校支援活動に参加したいと考えている人々がたくさんいます。地域に活動情報等を発信することは、活動を始めるきっかけづくりにつながります。多様な人々がそれぞれの専門知識・能力を学校支援で発揮することにより、子どもたちの活動の幅が広がり、学びが充実していきます。

連携活動の記録

連携活動については、実施したプログラムの記録は残っていても、活動状況の写真や参加者の感想等については意外と保存されていないものです。広報誌等でまとめることによって、学校の連携活動の記録としての意味も出てきます。また、地域側としても、地域住民の学校支援の記録としての価値もあります。

○情報発信の内容

発信する情報の内容としては次のようなものが挙げられます。

 活動報告

 お知らせ

 募集

スケジュール・連携活動の予定や学校行事の予定等

・コミュニティカレンダー -

連携体制がある程度整っている学校や地域では、学校行事や連携活動の予定、地域の行事等をカレンダーに記入し、学校と地域の 予定が一目で分かる「コミュニティカレンダー」 を作成・配布していることもあります。

コミュニティカレンダーにより、連携活動の調整が行いやすくなるとともに、学校と地域の人々との一体感も生まれてきます。 「学校と地





「学校と地域を結ぶコミュニティカレンダー」那須町教育委員会

②情報発信の方法

〇印刷物での発信

広報誌として「冊子」、「チラシ」、「パンフレット」、「ポスター」等で、地域の人々や保護者等に配布します。保護者だけでなく、地域の人々に配布したい場合には、地域の自治会等に依頼すれば回覧板等で配布してもらうことも期待できます。また、情報の内容によっては、地域の商店会等にお願いすることで、商店等での配布や掲示を引き受けてくれる場合もあります。

〇ホームページでの発信

印刷物だけでなく、ホームページを活用して連携活動を広報していくことも、活動を広く紹介する上で効果的です。各学校のホームページに活動の状況を掲載している学校も多くなっています。ホームページによる発信は広く情報を伝えることがで

きる反面、写真の掲載や記載内容等、慎重な 作成が求められます。

一方、学校支援ボランティアで構成する 団体等が独自にホームページを開設し、情 報提供を行っているところもあります。こ のような場合は、活動情報を共有すること で地域への情報発信を行ってもらうことが できます。



北光クラブ(鹿沼市立鹿沼北小学校)の ホームページ

Scene 9 連携活動を継続する

①連携活動の引き継ぎ

地域との連携活動は組織的に実施していくことが重要です。「地域連携教員が替わったから」「コーディネーターが替わったから」という状況の変化で、活動が縮小してしまうということは避けなければなりません。そのためには、日頃から連携活動の状況や人材情報を蓄積し、いつでも誰でも見ることができるように管理していくことが必要です。

○連携活動状況の蓄積

過去の実践活動の資料を参考にすることにより、新たな学年での連携活動の企画を効率的に行うことができます。「地域連携実践シート」や「人材活用実施計画カード」等により、個々の活動状況を記録している学校もあります。

事業名:C	〇短期大学生による学生派造型「英語教育」地域連携事業
目的	2年の英語活動の補助をお願いする。 英語活動の題材「色であそぼう」 ねらい ①身近な色の英語表現を知る。 ②ゲームを通して英語活動を楽しむ。
内容·方法	①【検別計問学生の自己紹介・朝のあいさつ ②【導入】色を表す英単語(12色)を学習(チャンツのリズムに乗って色を表す英語と会話練習) ③【活動】Raribow の歌を使ったゲーム(Rainbow の歌を覚えて、間奏でカラーパネルを変える。2人一組になって順番が変わった色を指さして探しながら歌う。) ④【展開】クラスの友達で輸こなって、カラーチャートカードを手に持つ。カラーチャートをの色を指さしながら、Raribow の歌を歌う。 ⑤【発展】輸になって、7色の色布を振りながら、I can sing the rainbow を歌う。
実施期間	平成〇〇年 ○月〇〇日(○) 10:35 ~ 12:10 (3校時:2-1 4校時:2-2)
連携先など	○○短期大学 ○○学科 教授 ○○○○先生
成果	・〇〇先生と短大2年生5名が来てくださって、子供たちの意欲が高まった。 ・短大生たちと歌やゲームでふれ合いながら楽しく活動することができた。 ・変化のある練習を繰り返し行うことで、色や会話の英語表現に親しむことができた。
課題	・机を使わず、グループやクラス全員で輸むなって活動するため、教室ではなく会議室で実施した。〈プレイルームがなくなったため、活動場所の確保が必要〉
その他 (特徴や予算に ついて)	 〇〇先生とファックスで連絡を取り合いながら、佐野市の年計に合わせて レッスンプランを考えていただいた。
係名:担当者名	国際理解教育担当

「地域連携実践シート」 佐野市立界小学校

〇人材情報の蓄積

活動状況の蓄積と同様に、学校支援に来ていただいた地域の人材の情報についても、記録し、蓄積していくことは、以降の連携活動の企画を行う上で有効な資料となります。地域連携教員、コーディネーターのどちらかが替わっても、これらの情報によりスムーズに引き継ぐことができます。

表4.1 「人材リスト」の例

番号	氏 名	関係児童(学年)	活動年数	連絡先	活動内容など
1 0000		0000(△年)	8年	000-0000-0000	1年生活・教材作成・読み聞かせ
2	0000	0000(△年)	5年	000-0000-0000	珠算・生活・体育
3	0000	0000(△年)	4年	000-0000-0000	読み聞かせ・生活
4	0000	○○○○(△年)	新規	000-0000-0000	図書
5					

②チーム体制づくり

連携活動の継続を図るには、地域連携に関する業務を地域連携教員のみで実施するよりも、地域連携係等の教員がチームとなって複数で対応していくことが大切です。 そうすることにより、地域連携教員が替わっても連携活動を継続的に、そして安定して実施していくことができます。

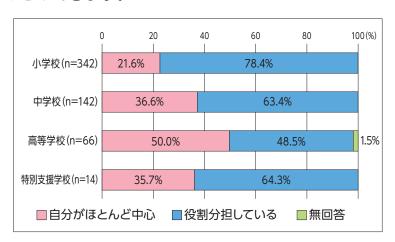


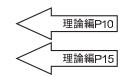
図 4.2 地域連携に関する取組をチームで進めているか

栃木県総合教育センター調査(平成28年)

図4.2は、地域連携に関する取組をチームで進めているかどうかを調査したものです。小学校では8割弱の学校がチーム体制で取り組んでいる状況ですが、中学校、高等学校になるにつれてその割合は低下しています。

地域連携教員は学校全体の連携活動をしっかりマネジメントしていくことが大切です。連携活動の全てを地域連携教員一人が担当するのではなく、学校の状況に応じて、地域連携係の教員や教頭、教務主任等と役割分担をして取組を進めていくことが連携活動の充実につながります。

Scene 1 O 連携活動の成果を見える化する



①評価の目的と方法

地域との連携活動は様々な成果を得ることができますが、より活動を充実させていくためにも、その成果を測定し評価していく必要があります。また、カリキュラム・マネジメントの観点からも、連携活動がどれだけ児童・生徒の学習活動に効果があったのか評価していくことが求められます。

評価の目的としては、主に次のような事項が挙げられます。

○活動の効果を見る 連携活動がどれだけ効果があったのか

〇取組の改善を図る 次回以降、何をどのようにして変えればいいのか

○意欲を喚起する 関係者の取組への意欲や関心を高める

そのために、これらの目的に応じた評価の項目を設定し、評価を行っていく必要があります。

表4.2は、誰を対象に何をいつどのように評価したらいいのか例示したもので、実際の評価はこれらの要素を組み合わせて実施していきます。

表4.2 評価の対象と方法(例)

誰を対象に	何を	いつ	どのように
児童・生徒	授業の目標達成度	事前	テスト(試験)
教員	活動の楽しさ	活動中	質問紙アンケート
保護者	活動の充実度	活動後(直後)	観察
ボランティア	地域(住民)への理解度	一定期間後	作文
地域住民 等	地域への愛着度 等	等	話合い 等

この表に示してあるように、活動の状況に応じて評価の方法を考えていく必要がありますが、学校と地域の連携活動を評価する上で、特に必要と思われる質問項目を以下に例示してみましょう。

児童・生徒

- ・教科の目標の知識等が身に付いたか。
- ・ボランティアの人たちに教えてもらい良く分かったか。
- ・ボランティアの人たちの良さが分かったか。
- ・地域に関心や愛着が持てたか。

教 員

- ・指導内容の充実を図ることができたか。
- ・ボランティアと学習目標が共有できたか。
- ・円滑に活動を進めることができたか。

コーディネーター

- ・学習内容に適した人材を紹介することができたか。
- ・ボランティアは適切に支援活動を行うことができたか。
- ・学校のニーズを捉えることができたか。

ボランティア

- ・教員と学習目標が共有できたか。
- ・円滑に活動を進めることができたか。
- ・継続して活動したいと思ったか。

保 護 者

- ・ボランティアの人たちと活動し子どもに変化があったか。
- ・子どもが地域に興味を示すようになったか。

②質問紙のつくり方

質問紙を作成する際には、調査したい事項を測定できる質問になっているか留意する必要があります。特に教科・領域における活動等、児童・生徒の変容を確認する必要がある場合には、事前・事後にアンケートをそれぞれ実施して、何がどのように変わっていったのかを確かめるのも効果的です。

以下に学校支援ボランティアに関する質問紙の例を示します。

学校支援ボランティアに関する質問紙(児童用)(市貝町立市貝小学校)

ずっこう し えん 学校支援ボランティアのアンケート () 年 () 組() 番	
1 市貝小学校では、先生以外の地域の人たちが、ボランティアとしているいろな手伝いをしてくれています。来てくれてよかったことは何はまるものすべてに○を付けてください。 () 勉強がわかり楽しくなった。 () ボランティアの人たちがいろいろ手伝ってくれてうれしかった。 () できなかったことができるようになった。 () ボランティアの人たちと楽しく話ができた。 () ボランティアの人たちのよさに気付くことができた。	ですか。当て
 () その他 (2 ボランティアの人たちが学校に来て困ったことはありますか。 () ある (() ない)
3 ボランティアの人たちに他に手伝ってほしいことはありますか。 () ある (() ない)
4 大人になったら、ボランティアとして、学校に来ていろいろなお手たいですか。 ()はい (理由 ()いいえ(理由	伝いをしてみ))

③評価結果の生かし方

「活動の効果を生かす」

教科の目標や達成状況、児童・生徒の変化等、活動を通した変化については、できる限り数値化して、年間指導計画等の教科関係資料にとどめておくことが、カリキュラム・マネジメントの視点からも必要になります。また、地域連携全体計画等の学校全体の計画の評価として、活動の効果に関する記録は重要なものとなります。積極的に「良かった」を形にしていきましょう。

「取組の改善に生かす」

アンケートの結果を基に、良かった点については継続的な取組として、悪かった点については改善を図るように生かしていく必要があります。

この観点においては、数値的な結果とともに、自由記述による具体的な改善に関する記載が、大変有効になります。結果によっては、活動の企画だけでなく、運営体制の改善を図らなければならない場合もあります。



いずれにしても、「地域とともにある学校」や「学校評価」の観点からも、取組等の改善を図るデータを得るチャンスと捉えることが大切です。

「意欲の喚起に生かす」

アンケート結果は、児童・生徒や教職員だけでなく、ボランティアや地域住民、保護者等の関係者の意欲や関心を喚起することにもつながります。「学校だより」や「地域連携だより」等において、連携活動の成果に関するデータを掲載することにより、地域の人たちに連携活動の重要性を知ってもらうとともに、他の地域の人たちに学校支援ボランティアに興味を持ってもらうきっかけにもなります。

そのためにも、アンケート結果はグラフ化するなど、できるだけ分かりやすい形で示していく必要があります。

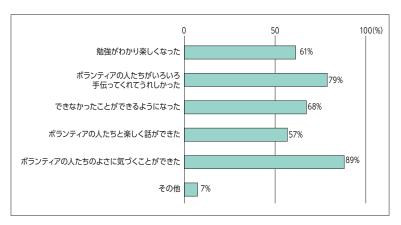


図 4.3 児童へのアンケート結果(市貝小学校)

学校支援ボランティアに関する質問紙 (ボランティア用)(市貝町立市貝小学校)

1	「学校支援ボランティア」としてどんな活動をしていますか。
	(どんな活動ですか:
2	「学校支援ボランティア」に参加した理由は何ですか。(複数回答可)
	() 学校での子どもたちの様子をみたい。
	() 学校のことをもっと理解したい。
	() 自分の知識や技能を生かしたい。
	() 自分の生きがいになる。
	() 地域社会のためになる。
	() その他 ()
3	
	意見(
4	ボランティア活動を行う上での問題点は何ですか。
	()活動時間を確保すること
	()活動する仲間や協力者が少ないこと
	() どんなことをしたらよいか分からないこと
	() その他 (
5	「学校支援ボランティア」が活動していることで、子どもたちにとってどんなよいことがあると
	思いますか。(複数回答可)
	()進んで学習に取り組んだり、学習したことが身に付いたりする。
	() 学校や社会のきまりを守り、友達、家族、地域の人たちと明るく接することができる。
	() 自分のよさに気付き、自信を持つことができる。
	()地域(人、もの)のよさに気付き、地域に愛着をもつことができる。
	()子どもの安全・安心の保障がある。
	() その他 ()
6	子どもたちに対して地域はどのような役割を果たせるとお考えですか。
	意見 (
7	その他、「学校支援ボランティア」についてのご意見がありましたら、御記入ください。
	意見 (

子	・校支援ホランティアに関する質問紙(保護者用)(市貝町立市貝小字校)
1	PTA活動(奉仕作業など)以外に、市貝小学校のボランティア活動をしたことがありますか。 () ある(どんな活動ですか:) () ない
2	「学校支援ボランティア」がどんな活動をしているか、ご存じですか。 ()知っている(どんな活動ですか:) ()知らない
	学校支援ボランティアが活動していることで、子どもたちにとってどんなよいことがあると思いますか。(複数回答可) ()進んで学習に取り組んだり、学習したことが身に付いたりする。 ()学校や社会のきまりを守り、友達、家族、地域の人たちと明るく接することができる。 ()自分のよさに気付き、自信をもつことができる。 ()地域(人、もの)のよさに気付き、地域に愛着を持つことができる。 ()子どもの安全・安心の保障がある。 ()その他(
4	学校でのボランティア活動に、保護者だけでなく地域の方々が参加することについてどう思いますか。(理由欄もご記入ください。) ()必要である ()必要ではない 理由()
5	学校でPTA活動以外にもボランティア活動をしてみたいと思いますか。 ()思う 理由(()思わない
6	()知っている → 7~
7	()知らない → ここで終わりです。ありがとうございました。 「地域コーディネーター」に対して、どのような役割を期待していますか。 意見()